

◆ 研究部の人事異動

- ・朝倉敏夫教授は3月31日付けで定年退職し、4月1日付けで名誉教授となりました。
- ・杉本良男教授は3月31日付けで定年退職し、4月1日付けで名誉教授となりました。
- ・佐々木史郎教授は3月31日付けで退職し、4月1日付けで東京国立博物館付部長となりました。
- ・齋藤玲子助教は4月1日付けで、民族文化研究部准教授となりました。
- ・菅瀬晶子助教は4月1日付けで、研究戦略センター准教授となりました。
- ◆ 研究部教員の着任（4月1日付）
 - ・飯泉菜穂子特任准教授 [先端人類科学研究部] 専門は手話通訳養成。民博では、学術手話通訳者養成の実践、カリキュラム・環境作りを行います。
 - ・相良啓子特任助教 [先端人類科学研究部] 手話言語学類型論、聴覚障害児教育。現在は、日本手話、および台湾手話など日本手話と歴史的に関係がある言語について、歴史社会言語学的観点から研究しています。
- ◆ 機関研究員の着任（4月1日付）
 - ・深川宏樹 [先端人類科学研究部] 専門は文化人類学、オセアニア地域研究。民族学・文化人類学の研究動向の調査研究をしています。
 - ・内田吉哉 [文化資源研究センター] 専門は歴史学、文化遺産学。国立民族学博物館における来館者に向けた学術コンテンツの作成と公開に関わる実証研究をしています。
- ◆ 拠点研究員の着任（4月1日付）
 - ・中川加奈子 [南アジア拠点] 専門は文化人類学、社会学、ネパール地域研究。南アジア都市における食肉をめぐる社会関係に関する民族誌的研究をしています。
 - ・辛嶋博善 [北東アジア拠点] 専門は文化人類学。モンゴル国の牧畜社会でフィールドワークを行い、そこで起こっている変化を観察、追跡しています。
 - ・黒田賢治 [現代中東拠点] 専門は宗教人類学等。イラン・イスラーム共和国の宗教と社会について、イランやインド、北米をフィールドに研究しています。

◆ 刊行物

- An Audiovisual Exploration of Philippine Music : The Historical Contribution of Robert Garfias* (SER No.133) Terada Yoshitaka (ed.), 2016年1月、国立民族学博物館。
- 『音楽からインド社会を知る—弟子と調査者のはざま (フィールドワーク選書11)』寺田吉孝著、印東道子・白川千尋・関雄二編、2016年2月、臨川書店。
- 『仮面の世界をさぐる—アフリカとミュージアムの往還 (フィールドワーク選書19)』吉田憲司著、印東道子・白川千尋・関雄二編、2016年2月、臨川書店。
- 『災害文化の継承と創造』橋本裕之・林勲男編、2016年2月、臨川書店。
- 『国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究』(SER No.134) 中川裕・遠藤志保編、2016年3月、国立民族学博物館。
- Культура народов Сибири и Дальнего Востока в музейных коллекциях России и Японии (методы сбора, учета, хранения и экспозиции)* (SER No.135) Шагланова Ольга А. Сасаки Сиро(Ред.), 2016年3月、国立民族学博物館。
- 『中国地域の文化遺産—人類学の視点から』(SER No.136) 河合洋尚・飯田卓編、2016年3月、国立民族学博物館。
- Northeast Asian Borders :History, Politics, and Local Societies* (SES No.92) Yuki Konagaya, Olga Shaglanova (eds.), 2016年3月、国立民族学博物館。
- 『仕事的人类学—労働中心主義の向こうへ』中谷文美・宇田川妙子編、2016年3月、世界思想社。
- 『景観人類学—身体・政治・マテリアリティ』河合洋尚編、2016年3月、時潮社。
- 『〈紛争〉の比較民族誌—グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混乱』丹羽典生編、2016年3月、春風社。
- 『民族文化資源とポリティクス—中国南部地域の分析から』塚田誠之編、2016年3月、風響社。

◆ 企画展

- ◆ ワンロード：現代アボリジニ・アートの世界
会期：2016年6月9日（木）～7月19日（火）
場所：国立民族学博物館 本館企画展示場

◆ 受賞

石毛直道名誉教授 瑞宝中綬章受章（2016年4月29日）